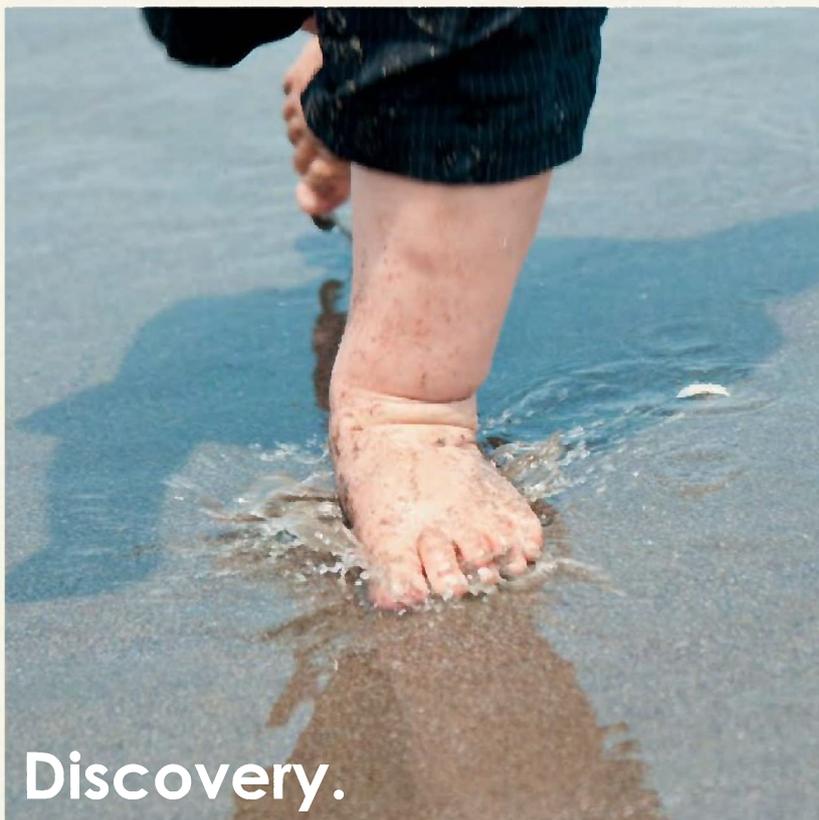


# みつけた!

福岡県保育協会通信



By mutual confidence and mutual aid,  
Great deeds are done, and great discoveries made;  
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなされる。  
—ギリシアの詩人 ホメロス

福岡県保育協会会長あいさつ	2
福岡県知事あいさつ	3
福岡県保育士会会長あいさつ	4
第 61 回筑豊地方保育事業研究大会報告	5
認定こども園	6
公立発信	7
新園紹介	8
第 61 回全国私立保育園研究大会名古屋大会	9
第 32 回 保育を高める研究集会	10
西日本豪雨県内被災地視察・編集後記	11

公益社団法人

福岡県  
保育協会

<https://www.fphk.jp/>

福岡県保育協会 で 検索



公益社団法人福岡県保育協会 会長 万田 康

## 会長あいさつ



平成 30 年度は、子ども・子育て支援新制度が施行から 4 年目に入り、各市町村において次期の策定に向け議論する必要があります。

全国的には、地方版子ども・子育て会議が十分に機能していない自治体が多くあります。地方版子ども・子育て会議は、自治体における地域の様々な動向も踏まえ、見直しも含め次期計画に反映させ、自園がどのような役割をもって事業を運営していくのか、中長期的な展望が求められています。

さて、国は、6 月 15 日に「経済財政運営と改革の基本方針 2018」(骨太の方針)を閣議決定し、「人づくり革命」の中に「幼児教育の無償化」と「保育士の更なる処遇改善」を明記しました。

「幼児教育の無償化」は、3 歳から 5 歳までのすべての子どもたちの保育所・認定こども園等の費用を無償化すること、保育士等の処遇改善は 2019 年 4 月からさらに 1%の賃金引き上げを行うこととされています。

また、子ども・子育て支援新制度の施行 5 年後の見直しに向けた議論が進められています。

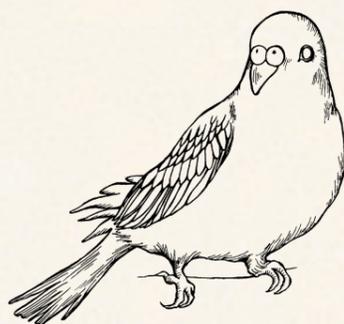
そして、量の拡大の動きに押しやられがちな保育の質の課題については、「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」が設置され、保育の内容面にかかる質の確保・向上に関する議論がスタートしています。

子ども・子育て支援新制度の 4 年目を迎えた平成 30 年度は、これらの国・制度の動きに迅速に対応するとともに、次期 5 年の子ども・子育て支援事業計画に向けた議論を活性化させなければな

りません。

これまで私たちが実践してきたこと、子どもの健やかな育ちへの思いや子どもの最善の利益の保障、地域の子ども・子育て家庭のための支援は、制度が変わろうともその本質において変わるものではありません。私たちが着実に実践を積み重ねることが、今求められているのです。

会員の皆様の実践を踏まえた保育の制度をより良いものとするべく、今後も活動を進めて参ります。



福岡県知事 小川 洋

## 知事あいさつ



福岡県保育協会におかれましては、日頃から保育の発展普及活動を通じて、子どもたちの健やかな成長と子育て家庭の支援に多大な貢献をいただき、深く感謝申し上げます。

また、7月に発生しました豪雨に対しましては、柔軟かつ迅速にご対応いただいた各保育所、ならびに保育士の皆さまに対し、心から敬意を表するとともに、厚くお礼申し上げます。県においても、被災された方々が一日も早く元の平穏な生活に戻るよう、全力で支援を続けてまいります。

少子化や核家族化、共働き家庭が増加していることや地域とのつながりが希薄になっていることなど、子育て家庭を取り巻く環境が日々変化していく中、子育てと仕事の両立支援を担う保育所が果たす社会的役割はますます高まっています。

国は、平成 29 年 6 月に策定した「子育て安心プラン」において、平成 32 年度末までに待機児童を解消すること、平成 30 年度から 34 年度末までの 5 年間で女性就業率 80% に対応できる受け皿を確保することとし、これをさらに前倒しし、平成 32 年度末までに整備することとしています。

県では、増大する保育需要への対応および保育環境の充実を図るため、引き続き市町村や貴協会などの関係団体と連携しながら保育所の施設整備を促進するとともに、保育の質の向上に向けた階層別研修や専門性の高い各種研修の実施に加え、保育士の人材確保および処遇改善にも取り組んでいるところです。

さらに今年度、保育士就職支援強化事業として、求職・求人の登録や情報検索が可能となるシステム

を構築します。このシステムを活用し、登録者やマッチングの増加を図るとともに、希望する求職者には県や市町村が実施する施策情報を配信するなど、保育の担い手の確保に努めてまいります。

子どもは福岡県の宝、元気の源です。これからも、保育に携わる皆さま方のご意見を踏まえ、子どもが健やかに育ち、子育てを地域全体で支え応援する社会づくりを進めてまいりますので、今後とも皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに貴協会のますますのご発展と、皆さまのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。



福岡県保育協会保育士会会長 上村 初美

## 保育の質を問う

平成 30 年度が始まり、早くも 4 分の 1 が過ぎました。このわずか 4～5 カ月の間に日本中が自然の災害に見舞われ、「命を守る行動をとってください」という今までに聞いたことのないような避難指示の言葉が連呼されました。地震、水害、台風、猛暑が多くの方々の大切な命を奪い、生活を奪い、夢を奪い、明日を奪いました。心の底から哀悼の気持ちをささげ、お見舞いを申し上げます。また日々、ボランティア活動をされている皆さまにも尊敬の思いでいっぱいです。

さて今、国では「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」を開いています。5 月 18 日に第 1 回が開催され、8 月 2 日には第 4 回が開催されたところです。4 回目の検討会では、保育三団体がそれぞれに「保育の質」について各団体の意見を述べました。全国保育協議会と全国保育士会は、合せて 15 分の持ち時間で、共に副会長が発言してきました。全保協は、『全保協の将来ビジョン「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現」をめざして』を提唱していることを発言しました。

全国保育士会では、倫理綱領を基盤に資質向上を目指すため、次のことを述べました。

- ① 保育所保育指針の改定を受けて、「保育士・保育教諭の研修体系」の見直しをし、キャリアアップ研修も考慮しながら、研修を体系化し、継続性を持たせて充実させることに努めていること。
- ② 主任保育士・主幹保育教諭の特別講座を実施し（約 30 年間に 2009 名の保育リーダーを育成）、保育のスーパーバイザーや地域における子育て支援の知識や技術の獲得に務めていること。
- ③ 保育を「見える化」し、質の向上につながるツールを開発したこと。  
「養護と教育が一体となった保育の言語化」の保育実践冊子と研修用ワークブックを作成し、自らの保育を見つめ直し、他者に保育を説明できるよう言語化を図っている。
- ④ 食育の推進のため、エビデンスに基づき、「食べることは生きること」のパンフレットを作成し、自園調理の優位性を全国へ発信していること。
- ⑤ 保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリストを作成し、研修会で活用していること。
- ⑥ 子どもの貧困問題や児童虐待防止対策に関する研修のための冊子を作成し、研修会で活用していること。



また、保育の評価の方法として自己評価や福祉サービス第三者評価への取り組みが重要であることを述べ、今後の自らの自己評価のあり方も提唱してきました。

この検討会は、後に論点整理がなされ、改定指針に沿った自己評価ガイドラインの作成が予定されています。今後保育の質が大きく問われることとなるでしょう。

さて、先般より関心の高い、大阪府・大阪市提案の「保育需要に対応するため、国家戦略特区において、人員配置に関わる特例の申し出」が、この度閣議決定されました。つまり、待機児童解消までの期限措置として地方公共団体が取り組む「保育支援員」を活用して良いということです。

厚生労働省対応案は、保育士不足で運営が困難などの緊急な場合に限り、認可保育園から地方裁量型認可移行施設（仮称）へ移行することも可能としました。「認可外保育施設となるなら認める」ということです。国家資格の保育士ではなく、保育支援員による保育を受け入れることとなります。この対応案は、自治体の判断で行われる部分が多分にあることが予測され、大阪府・大阪市提案が他の保育士確保が難しい地域に展開されるのではないかと懸念されるところです。当然保育三団体は、私たちの思いも受けて、6 月 15 日の「未来投資戦略 2018」の閣議決定に対して、保育の質の低下につながるような施策に強い懸念を表明しました。

保育の質は、何によって担保されていくのでしょうか。「保育は人の手」によるものです。では、「人の手」は、何によるのでしょうか。「人の手」は、深い愛情と専門性の学びによるものだと思います。子どもの言葉にならない言葉や行動を読み取り、その状況にあった環境を考慮した保育を展開していくことは私たちの責務です。待機児童解消のための保育の受け皿拡大と保育の質の確保は「車の両輪」とであると国も言っています。国家資格の専門職としての力量を一層磨くことを提唱し、一人ひとりの子どもの幸せを願うものです。

## 第 61 回 筑豊地方保育事業研究大会

遠賀中間地区保育協会 大会実行委員長 川端 憲隆

### 「すべての子どもたちの 輝く未来のために」

～一人一人の個性を大切にしよう～

平成 30 年 6 月 10 日、なかまハーモニーホール（中間市）において、第 61 回筑豊地方保育事業研究大会は、1200 名の参加者が会場を埋め尽くして開催されました。

保育をますます高めていきたいという熱い思いから、専門分野のスキルアップを目指した大会趣旨を実行委員会において確認し、続いて地区の全園から提出された標記大会主題の選考から企画がスタートしました。今回の大会では、大会日程の真ん中に大会式典を挟んで多少ハードなスケジュールではありましたが、午前と午後各 90 分の研修を行いました。

午前中のシンポジウムでは「気になる子の支援と保育を考える」と題して事前に実施したアンケート調査結果を基に、「気になる子」の現状が保育士の生の声を交えて、地域でご活躍中の小児科医の先生、発達支援センター支援員の先生方によって、それぞれ専門のお立場からのプレゼンテーションと自由討論が進められました。

シンポジウムの結果、インクルーシブな保育を前提にした支援の構築と自発的地域連携（専門機関同士の連携）、地域コーディネーター（リーダー）の発掘と、今後も「気になる子の支援と保育」に向けたマンパワーと保育を基本にした支援の方途を確立する必要性をますます感じる事ができました。本会の趣旨をご理解いただき、大変熱心にご協力いただきましたコーディネーター並びにシンポジストの皆様には心からの敬意を込めて感謝申し上げます。

午後の記念講演では「脳科学の視点からの乳幼児期の発達と保育」と題して、文教大学教授で脳発達科学者であり、小児科専門医の成田奈緒子先生に、遠く埼玉県よりお越しいたご講演をお願いしました。

先生は午前中のシンポジウムを全てお聴きになられた上でご自身の講壇に立たれて、「脳の発達においてまず大切なのは本能の部分、いわゆる体の脳の部分であり、人の家であれば土台の部分をしっ



かり育てることが大切である」とご講義されました。すなわち養護（いのちと情動）の部分と、睡眠を始めとする健全な生活習慣の自立が第一に大切で、運動やおりこうさん脳よりも、よりセンシティブな発達を見せるということが学べたのではないかと思います。

また、午前中のシンポジウムと合せて、保育所に於ける 0 歳から年長までの一貫した保育の中での「支援」の大切さと、更には小学校との接続までも見据えた保育の重要性が学べたとも思います。記念式典では多くの来賓の方々をお迎えした中で、白山勝也筑豊地方保育協会々長の式辞に続いて、万田康福岡県保育協会々長の挨拶があり、引き続き行われた表彰式では、保育士他 42 名の方々が栄えある一般表彰を受けられました。

続いて開催地の行政を代表し、福田浩中間市長と、遠賀郡町長会から波多野茂丸芦屋町長より、それぞれ歓迎のご挨拶を頂き、福岡県知事代理・神代暁宏福岡県福祉労働部長様からは温かい励ましのお言葉と、福岡県知事から預かってこられたご祝辞を頂戴し、続いて衆参両院の先生方と県議会の先生からもお祝いとお励ましのお言葉を頂戴いたしました。今回は 1 市 4 町からのマスコットキャラクターたちも応援参加してくれましたが如何でしたでしょうか。

大会を振り返って思ったことは、人の輪を広げて保育をもっと進化させなければということです。根っこの部分を大切に守り続けるためにも、もっともっと多くの人の力を子どもの幸福増進のために結集させることです。しかし保育の現場では、パワー不足の解消と自己研鑽との間にジレンマが生じてしまっています。私たちの保育の夢が子どもたちの輝く未来へと繋がっていくように、もっともっとみんなで頑張っていこうと思いつつ今大会を閉会しました。

実行委員の先生方のご協力に、心より感謝申し上げます。

## 認定こども園

みのりこども園 園長 蓮井 求道

幼保連携型認定こども園  
に移行して

社会福祉法人護法会 みのりこども園は、行橋駅から車で10分ほどの、日本三大カルストの1つである平尾台の麓にあります。

当法人は、昭和34年4月に「みのり保育園」を開園、平成25年にみやこ町の公立保育所の民間委託を受けた「いさやま保育園」の2施設を運営しています。

平成30年よりみのり保育園は、幼保連携型認定こども園（定員 保育園部75名、幼稚園部15名）へ移行するとともに、地域交流センターと一体化した地域複合施設として新たにスタートしました。大きな1枚ガラス戸を全面開放すると、目の前に平尾台の大パノラマが広がり、園児たちは四季を感じながら伸び伸びと過ごしております。

保育方針は「恵まれた自然環境の中で豊かな感性と表現力を養う。家庭・保育者・地域との豊かな関係性を保ち、共に育ち合う保育」であり、環境は正にその通り。また、集中力を養うために音感行動（例えばピアノで弾く音楽で、お集りなのか静かにする時間なのかを聞き分ける等）やフラッシュカード・リトミック等を行っており、専門家による音楽指導も定期的に受け、発表会でオペレッタや楽器演奏に力を発揮しています。

地域との関係性において、校区の中心となるコミュニティセンターと隣接しており、地域交流・地域の子育てを大きく担っております。

認定こども園に移行し、保護者の就労形態の変更や出産など家庭環境が変わる度に保育時間の限度や入所要件の可否で退所しなければならない現状で、家庭状況に左右されない同一施設での受け入れ環境ができるようになり、育休取得中の保護者からも喜ばれています。

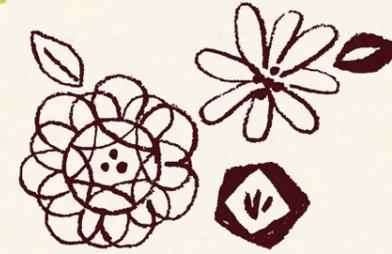
長時間利用児と短時間利用児がいるため、活動時間をすべての子どもがいる午前中を中心とし、午後のおやつ以降は家庭的な雰囲気保育を行うよう配慮しています。



また、在園時間が異なる多様な園児がいることを踏まえて、園児の生活が安定するよう一日の生活リズムを整えるように工夫しております。

保護者にとって交流の場、相談できる場として園で繰り広げられる活動が新しいコミュニティを生み出すきっかけになればと願っております。

今後は地域コミュニティセンターや小学校、子育て支援センターを利用する未就園児、そして地域の方々との絆を生み出す拠点となる認定こども園を目指したいと思っております。

公立  
発信

豊前市立ちづか保育園 園長 尾家真由美

ひとりひとりを大切に  
した保育を目指して

## 1 はじめに

豊前市は、福岡県の東南端に位置し、南に修験道の遺跡で知られる求菩提山、天然記念物「ツクシシャクナゲ」が自生する犬ヶ岳をひかえ、ここに源を発する岩岳川を中心に豊前平野が扇状に開け、北は波静かな周防灘に面しています。東九州自動車道と国道10号線およびJR日豊線によって構成される東九州ルートが通り、京築地域南部の中心都市として位置しています。

市内には10の保育園があり、ちづか保育園は唯一の公立保育園です。現在、定員60名に対し、58名の園児が入所しています。

## 2 保育方針

「日常生活の遊びの中で、思いやり・体力・知力を育てる。」

- お互い影響し合って育ちあうような仲間関係をつくる。
- 意欲的に何事にも取り組めるよう、困難さを乗り越える力と経験を積み重ねて、達成感を味わう。
- 手先・足先までのしなやかな身体をつくるために、リズムなど発達をおさえた働きかけをしていく。
- 自ら考え自ら判断して行動できる、自分の意思をはっきり言えるような人間に育つよう、イメージを大切にします。

## 3 園内での取り組み事例

## ○チポリーノ広場

幼児期にたくさんの音楽に触れさせ、体全体を動かして楽しんでもらおうと、13年前から続けているリトミックの教室です。元音楽教師の方を講師に、ピアノに合わせて歌を歌ったり、飛び跳ねたり。チポリーノ広場がある日を子どもたちは楽しみにしています。



## ○わいわいイングリッシュ

週に1回、英会話の教室を行っています。英語でお話しする外国人講師の指導の下、ゲームをしたり歌を歌ったりと、子どもたちは先生が何を話しているのかがよくわかっています。



## 4 地域との交流

毎年、近隣の病院や施設を訪問させていただいており、年長・年中・年少の園児が敬老会やクリスマスの行事にお邪魔して歌や踊りを披露し、とても喜ばれています。隣接する小学校の運動会では園児の踊りをプログラムの一つに入れてもらい、幅広い年齢層の方々との交流しています。また、今年は市内の児童発達支援センターとの相互交流も計画中で、今後も様々な地域の方々とのつながりを深めていきたいと考えています。

## 5 おわりに

市内で唯一の公立保育園となって15年が経過しようとしています。求められる保育サービスも多様化し、困惑することも数多くありますが、子どもたちにはのびのびと過ごしてもらいたいと思います。公立だからこそできることを常に模索しながら、ひとりひとりを大切に、安心して子どもを預けられる保育園を目指して、がんばっていきます。

# 新園紹介

ぴかぴかの新園を宜しく願います!

## 春日どろんこ 保育園

園長 北原 由美



春日どろんこ保育園は、2018年4月に九州初となるどろんこ会グループの認可園として春日市に開園しました。当園では「自然体験」をととても大切に、園庭にあえて遊具は設置せず築山や木のある自然と同じような環境作りをしています。木登りに適した木も植えていて、木登りをしたり、築山の斜面を段ボールで滑り降りたり、毎日裸足で泥だらけになって遊ぶ中で、「こういう遊びがしたい」「こうすればもっと面白いのでは」というように、自分で考えたり友だちと相談しながら判断し行動できる子どもに育つよう、機会を排除しすぎない保育をしています。

また、命を教えるということでヤギを飼っています。保育園でヤギという珍しいと思いますが、出産等の瞬間に立ち会うことで生死を体験認識したり、生き物(=いのち)を責任もって世話をすることで優しい気持ちを育む情操教育にも繋がっています。ヤギの糞で畑の堆肥を作り、美味しい野菜も育てています。

地域との交流も意識して行っていて「ちきんえつく」という子育て支援室が園内にあり、誰でも自由に予約なしに遊びにくることが出来るようになっていきます。9:30～16:30は園開放を行っており、園庭を含め園内で自由に遊べますので赤ちゃん連れのお母様や、地域の幼稚園・小学生が利用してくれています。お子様やお孫さんがいらっしやなくても、地域の方々子どもたちと触れ合いに来てくださることが多く、近隣の皆様可愛がっていただいております。

これからも、保護者様や地域との関わりを大切に、子どもを豊かに育てていくことに保護者様や地域との連携を深めながら、家庭・保育園・地域での「共育」を実践していき、人と人の結びつきが強く地域に根ざし、地域に愛される保育園を目指して職員一同頑張っております。

水城青稜保育園は、歴史とみどり豊かな文化のまち太宰府に、平成30年4月1日定員60名で新設開園しました。園のすぐ先には小学校・中学校・高等学校のある、教育的に大変恵まれた地域にあります。他方で園庭からは、宝満山・四王寺山を望み、山々から吹いてくる四季の風を部屋いっぱいに取り込み、毎日過ごしています。

そんな地域と調和するよう、芝の園庭には緑鮮やかな木々が植わっています。ヤマボウシやオウゴンマサキの木、そして一際目につくのが、4～5メートルの“どんぐりの木”です。あと数年もすると、どんぐりの実を並べて数えたり、ヤジロベエを作ったり想像豊かな遊びが展開されることを期待しています。そのような自然環境の中で、子どもと一緒に活動し、自分たちで考え、表現する力、伝えられる力を養い、何事にもチャレンジしていきけるように、私たちは見守り、寄り添い、子どもたちの声を温かく受容していきたいと思っております。

また園では、農業高校の生徒たちと共に一年を通じて、季節の苗を植え、実になった作物を収穫する喜びを分かち合い、自然の営みを学びながら旬の作物をホールで楽しく食しています。そしてこのホールは、保育士が子育てに悩みを持つ保護者の相談を受け、保育士が子どもと一緒に過ごしている間に、保護者には自分の時間が持てるような空間として作られています。

水城青稜保育園では、地域の子どもと一緒に過ごし、子どもと一緒にお茶を飲み、親子の時間がゆっくりと持てる場所で、子どもの健やかな育ちを支援できるように取り組んでいます。子どもたちが毎朝元気に「おはようございます!」と飛び込んでくる“楽しく安心できる保育園”、“子どもたちが卒園して大きくなって、いつでも帰って来られる保育園”、“地域の皆様からも愛される保育園”を目指し、職員一同頑張っております。

## 水城青稜 保育園

園長 森 ひとみ



## 那珂川 第一幼稚園

園長 河野 博行



初めまして!平成30年4月より福岡県保育協会にお世話になります、幼保連携型認定こども園香蘭女子短期大学附属那珂川第一幼稚園でございます。新参者ですので、少し園の紹介をさせていただきます。昭和56年に那珂川町大塚台に幼稚園として開園し、その後昭和63年に山内学園と合併後、香蘭女子短期大学附属幼稚園として動き出しました。平成17年に現在の場所に新築移転し、今年度より幼稚園から認定こども園に移行し定員225名で動き始めました。

保育目標として幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいた保育計画で、教育と保育を一体的に行いながら、豊かな子どもの育ちを保障し、将来を生き抜く力を育む保育を目指しています。附属幼稚園として幼児教育の実践経験はありましたが、こども園の運営については、初めてのことで大変不安でした。認可までの事務手続き等に関しては、学園との連携で完了する事ができたのですが、開園しながらの移行ですので、特に在園児への影響及びその保護者の反応や意見など大変心配いたしました。当然ながら説明会を何度か行いながら、皆様のご理解をいただけるように教職員一同努力いたしました。おかげさまで百パーセントとは言えませんが、何とか同意を得る事ができたことで、こども園として出発することができました。移行に際しては、那珂川町を含め多くの保育園やこども園のご協力があつたことは言うまでもありません。動き出してまだ3か月余りしか経っていませんが、分からないことが多すぎて手探り状態の毎日です。特に保育には副園長を中心に幼稚園部主幹、保育園部主幹、事務主任の4名を中心に40名余りの若手からベテランの保育教諭が連携を取りながら幼児の保育を行っています。これから、協会のみなさんのアドバイスをいただきながら頑張りたいと思っております。今後ともよろしく願いたします。

## 第61回全国私立保育園研究大会名古屋大会

認定こども園 むつみ保育園 園長 植田 智広

### THE CHILDREN ALWAYS COME FIRST

## 視点はいつも子どもたち ～子どもと向き合う新たな文化～

平成30年6月4日～6日の3日間にわたり名古屋市国際会議場にて全国各地から約2300名の保育関係者が集い、第61回全国私立保育園研究大会が「THE CHILDREN ALWAYS COME FIRST・視点はいつも子どもたち～子どもと向き合う新たな文化～」をテーマに開催されました。

大会のオープニングは名古屋で結成された和太鼓とマリンバのアンサンブルを奏でるGONNAの迫力ある演奏から始まりました。その後、式典が行われ、全国私立保育園連盟会長、小林公正先生からの主催者挨拶をはじめ来賓祝辞等ののちに、平成30年度全私保連表彰として保育功労賞、連盟特別功労賞の表彰が行われ、福岡県保育協会加盟園からも4名の方に保育功労賞が贈られました。また同時に保育カウンセラー資格認定表彰も行われ、各県より41名の先生方が新たに全私保連保育カウンセラーとして認定をされました。

行政説明では、厚生労働省子ども家庭局保育課の担当官の方より「改定保育指針について」、基調報告では、全国私立保育園連盟の常務理事、塚本秀一先生より「保育を取り巻く動向と情勢について」と題し国の保育情勢や全私保連の取り組み等の説明と報告が行われました。

シンポジウムでは、「非認知能力と3要領・改定(訂)における10の姿について」～乳幼児期の保育実践から考える～をテーマに、東京大学名誉教授の汐見稔幸氏、乳幼児教育実践研究家(元東京家政大学ナースリールーム主任)の井桁容子氏、社会福祉法人共育ちの会あかつき保育園園長の山中健司氏を迎え、指定討論者に名古屋市民間保育園連盟会長(天使保育園園長)の伊藤世光先生、司会に幼保連携型認定こども園むくどり風の丘こども園園長の朝比奈太郎先生といった先生方が壇上で、非認知能力の重要性を振り返り、現場の実践を通して「生きる力の基礎を培うために育みたい能力」「乳幼児期の終わりまでに育てほしい10の姿」と「非認知能力の育成」をどのように関連付け、これから先の保育のあるべき姿、乳幼児期の保育



のあり方・保育の大事な視点について短い時間ながら熱く丁寧な討論を拝聴させていただきました。

大会2日目の分科会では、保育実践や経営課題、命、あそび、名古屋探訪とテーマ別にそれぞれが魅力的な24の分科会が設定されていました。

その数ある分科会の中から今回は、私の地元、京築地区と原保育園の伊藤副主任保育士が提案者として発表を行った、分科会2「子どもの人格を尊重した保育～乳児期の保育～」を受講しました。与原保育園を含め3つの園での取り組みが報告がされた後、助言者として愛知県立大学准教授の瀬野由衣氏が登壇されグループ討議等を交えながら、提案発表をした3園に助言をされていきました。この分科会を受講し改めて、一人一人を大切にす保育の実践には、個人それぞれの気づきはもとより、保育士同士、職員同士の連携がいかに大切かということを再考するきっかけとなりました。

分科会終了後には、ホテルナゴヤキャッスル等で交流会が行われ、様々なアトラクションや名古屋の名物料理を楽しく堪能し、同県のみではなく他県の先生方と出会う素敵な機会となりました。

大会3日目の記念講演では、オリンピック・メダリストランナーの有森裕子氏をお迎えして「夢はかなう～あきらめない心を持って～」と題し、自身の経験から学んだ事などのエピソードを交えながら、努力することへの姿勢などについてご講演をいただきました。「世の中にたった一人しかいない自分の生き方にこだわる。」や「二度とやってこない一瞬一瞬を精一杯生きること。」を信条とする有森裕子氏らしい素敵な記念講演でした。

次回、来年は九州・熊本市での開催です。是非参加していただき、熊本市の皆様とともに大会を盛り上げ、私立保育園研究大会が、各会員園の皆様にとって多くの学びを得る機会となることを願います。名古屋大会の報告とさせていただきます。

## 第32回 保育を高める研究集会

社会福祉法人大楠会おおり保育園 園長 井上 孫紹

「素敵な保育を紡ぐ  
結（ゆい）の力」

～くわや たから（子は宝）～

第32回保育を高める研究集会「素敵な保育を紡ぐ結（ゆい）の力」～くわや たから（子は宝）～が鹿児島県奄美市にて平成30年6月27日（水）、28日（木）開催されました。全国から550名を超す保育関係者が奄美大島に集いました。私は27日朝福岡空港から奄美大島へ入りました。福岡空港から奄美空港には直行便が1日1便発着しており、福岡より1時間15分で前日に梅雨明けしたばかりの奄美大島に到着しました。奄美空港から会場がある奄美市中心街までは保育関係者でほぼ満員の路線バスで約1時間かかりました。途中乗降される地元の方々が満員のバスに驚きながら、バスの運転手の方に話しかけられる光景が非常に印象的でした。

初日は奄美市の奄美文化センターで開会式、行政説明、特別講演が開催されました。開会式の前のオープニングでは奄美市認可保育園7園5歳児による太鼓等の発表があり、島の子ども達のはつらつとした姿に多くの参加者が目を細めていました。その後開会式は、鹿児島県保育連合会岩下会長の開会の挨拶に始まり、地元自治体代表の歓迎の挨拶、日本保育協会大谷理事長の挨拶がありました。司会者の「奄美大島に初めて来た方？」という問いには会場の約8割の参加者が手を上げていました。

開会式に続いて厚生労働省子ども家庭局保育課保育指導専門官高辻千恵様による行政説明がありました。高辻専門官からは保育分野の現状と取り組み、改定保育所保育指針について説明がありました。保育所等定員数・利用児童数・保育園等数の推移はここ数年大幅な伸びを示しており、大きな背景の一つとして女性の就業率の上昇があることの説明があり、人不足、人材不足が解消されない限り、当面の状況は変わらないのではないかと感じました。

特別講演では、「唄が織りなす奄美の文化」と題し奄美に関係のある森圭一郎さん、中（あたり）幸介さん、元ちとせさん3名のライブトークがありました。特に奄美大島出身の中さん、元さんのトーク及び唄（しま唄）は奄美の雰囲気をも十分に感じることが出来ました。

2日目の午前は6つの分科会が各会場に分かれて開催されました。私は第4分科会「保育の専門性を高めるために～気持ちいい職場づくり～」に参加しました。この第4分科



会には参加者の半数の約280名が集まり、保育者の業務、職場環境の改善について2園から実践発表があり、鹿児島女子短期大学教授の坪井先生からは保育園が抱える問題点と課題、改善策などの話がありました。参加者数が多いということからも、多くの園が気持ちいい職場づくりに興味があるということが感じ取れました。保育士不足を解消するためにも、処遇だけではなく、職場の環境の改善が急務であると感じました。

午後からは奄美文化センターに会場を移し、シンポジウムが開催されました。鹿児島県鹿児島市の春日保育園白濱園長と長崎大学小西准教授と神戸市委託発達障害ピアカウンセラー笹森氏から子育て支援について発表があり、続いてコーディネーターの保育園を考える親の会普光院代表の発表がありました。特に笹森氏は自分自身が32才の時に発達障害の診断を受け、また3人の発達障害の保護者という立場から「出来ないことを怒るのではなく、理解してどうすれば出来るかを創意工夫して考えて教える」ということの大切さを訴えておられました。貧困等の社会情勢や子ども達の個々の発達状況に保育者個々で対応するのではなく、保育園のチーム力で取り組むことが今後の子育て支援には必要であると感じました。

シンポジウムの後は日本保育協会杉上常務理事から活動報告、幼児教育無償化の具体的イメージについて等の説明の後、閉会式に移り、最後は来年の名古屋での保育を高める研究集会の案内で今回の研究集会が閉会となりました。

今回、初めて奄美大島に行く機会をいただきました。正直、奄美大島で今回のような大きな大会が出来るのだろうかという不安はありましたが、運営スタッフのご尽力で研究集会運営に大きな問題なく、有意義な研修を受けることが出来ました。初日の夜の懇親会では地元奄美の保育関係者や地元の子どもの出し物もあり、奄美の方々の情熱とやさしさを感じることが出来ました。研修の内容もさることながら、「人のために何が出来るか」という人を育てる仕事をする上で大切なものを教わり、とても暖かい気持ちになりました。鹿児島県保育連合会の皆様に深く感謝の意を表し報告とさせていただきます。

## 平成30年7月豪雨（西日本豪雨）県内被災地視察【事務局報告】



被災状況について説明を受ける



大橋保育園（久留米市）



文殊乳児保育園（久留米市）

8月17日、万田会長他3名は西日本豪雨で甚大な被害を受けられました、小都市のすばる保育園、久留米市の大橋保育園、文殊乳児保育園を訪問し、お見舞いを申し上げますとともに、園の被災状況等についてお聞かせいただきました。

また、当日、当該地区会長にもご同行いただき、ありがとうございました。

すばる保育園では、7月6日正午前後、水路が溢れて周辺の水田に浸水が始まり、瞬く間に施設内に濁水が入ったということとあります。また、大橋保育園及び文殊乳児保育園では7月6日19時頃、筑後川支流の水門閉鎖の影響により水路の水高が一気に上昇し、床上浸水に至ったというもので、両園は床上約50cmの水位が計測されております。いずれの施設にも、いまなお浸水当時の痕跡が鮮明に残り、被害の大きさが推し量られました。

各園において、今回の災害では、避難指示等の連絡を受け、速やかに保護者への連絡、さらに的確な避難誘導により尊い人命が失われなかったことは、日ごろより防災に対する意識の高さ、備えの賜であると強く感じたところであります。

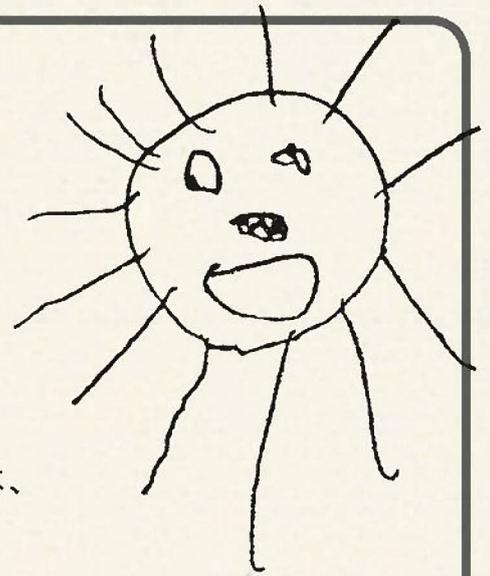
当協会といたしましては、今回、豪雨災害に遭われました全ての保育所（園）に対しまして、お見舞い申し上げますとともに、保育三団体、当保育協会、そして、県保育事業協会のお見舞等に係る事務手続きを早急を実施することといたします。

## 【編集後記】

平成30年度の役員改選により、二期目の広報部長に就任することになりました。新しいメンバーを加え、会員の皆様に新保育所保育指針や来年から始まるであろう保育料の無償化、さらに、編集会議で決定いたしました保育三団体の全国大会の報告等、内容の充実、新しい情報等の掲載に努め、皆様に興味を持って読んでいただける「みつけた!」を目指していきます。どうか、ご協力をよろしくお願いいたします。

広報部会長 猿渡

# 園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。

(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

## ほいくのほけん

「園賠償責任保険」

「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」

「特別保育事業賠償責任保険」

など、園経営におけるリスクに関する保険をラインナップしています。また、それらを総合的に補償するセットプランもご用意しております。

## 園児総合保障 共済制度

園児を24時間補償する共済制度

(総合生活保険(こども総合補償))です。

団体契約による割引の適用で割安な掛金で補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。  
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

〈連絡先〉 (公社)全国私立保育園連盟指定  
東京海上日動火災保険株式会社代理店

## 有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内  
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉  
東京海上日動火災保険株式会社  
担当課：公務第二部 文教公務室  
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・総合生活保険(こども総合補償)の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

